記者発表資料

平成２１年１１月２４日

「新町通りの自転車通路社会実験」の本格実施が決定

「青森県自転車安全利用推進協議会」では、平成２１年１０月１日～１１月２０日の期間、新町通り（主要地方道　青森停車場線）において、バス停車帯を閉鎖し、自転車通路を確保する「社会実験」を行ってきました。

これを受け、１１月２０日に「青森県自転車安全利用推進協議会」で今後の方針について検討した結果、
①自転車通路の利用率が実験前に比べ約２倍に向上したこと。
②約６割の歩行者・自転車利用者から安全向上などの評価をいただいたこと。
等を受け、本格実施に移行することが決定されました。
また、自転車通路走行利用のさらなる向上等に向け、
①商店街等と連携し、継続的に啓発活動を行っていくこと。
②来年度の本整備に向けて、バス停車帯部の自転車通路幅員等の改善策を行っていくこと。
等も決定されました。

【社会実験実施の背景】
◆「新町通り」は、ＪＲ青森駅へ通じる路線であり、朝夕は通勤・通学者、日中は沿道店舗への買い物客等の多くの歩行者、自転車が往き来する通りであり、円滑な道路交通確保の観点で、バス停車帯や自転車通路が整備されています。しかし、自転車通路がバス停車帯部分でこれを避けアーケード内を通過するため、歩行者と自転車が輻輳し、危険な状況にありました。
◆このため、歩行者と自転車の輻輳を無くし、安全・安心な通行空間形成が求められており、歩行者と自転車利用者を分離する自転車通路確保に関する社会実験を実施してきました。

【参　考】
◆「新町通り」を含む青森地区は、平成２０年１月１７日に国土交通省と警察庁が、今後の自転車通行環境整備のモデル地区として指定した箇所です。

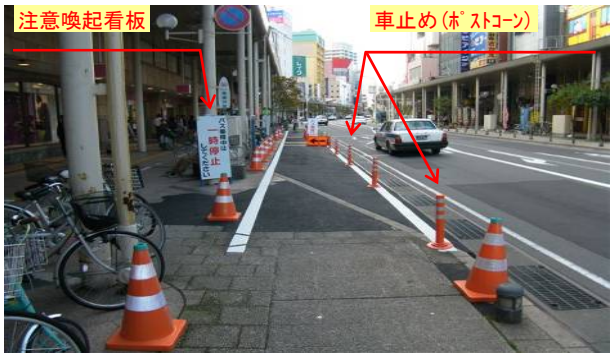
※今回の社会実験の結果概要版については別添資料をご覧下さい。

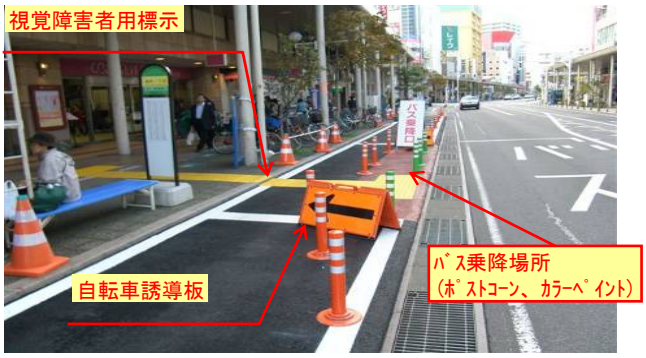
※記者発表：青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社

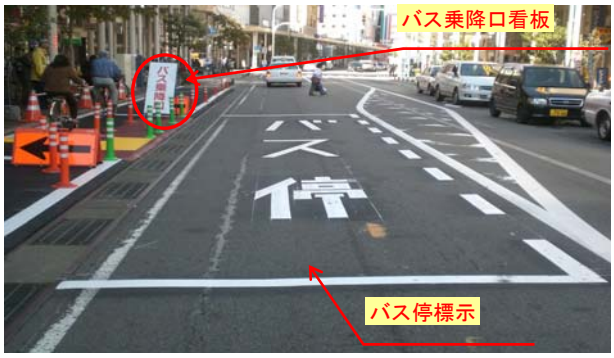
【問い合わせ】
「青森県自転車安全利用推進協議会」
事務局：国土交通省　青森河川国道事務所　交通対策課
課　　長　　渋谷（しぶたに）　正之（まさゆき）　　TEL：017-734-4575
青森県県土整備部 道路課 道路環境グループ
総括主幹（ＧＭ）釜谷（かまや）　哲二（てつじ）　　TEL：017-734-9656

① 社会実験の状況写真

今回の社会実験では、バス停車帯を自転車通路としたことでバス利用者は自転車通路での乗降となった。そのためバス停部においては、ポストコーンやセーフティコーン、注意喚起看板などを設置するとともに、一時誘導員を配置してバス利用者の安全を確保した。











交差点部：誘導員配置は10月7日まで



バス停部：誘導員配置は10月15日まで

これらの安全対策により、自転車とバス乗降者との接触などの危険な状況は見受けられなかった。
また、車道においても慢性的な渋滞は発生しなかった。

② 調査結果の概要

2．1　自転車走行状況結果

従来構造での自転車通路走行比率 ： 25%

自転車通路走行比率が大きく向上

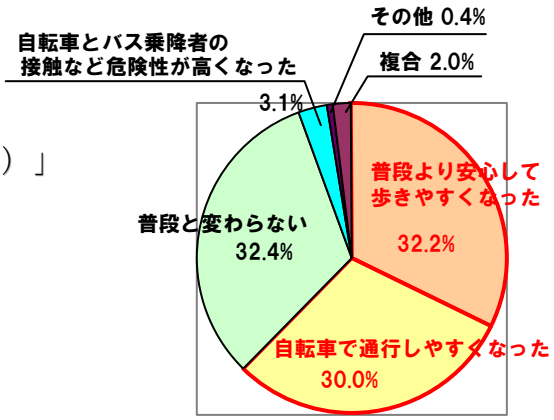
誘導員配置（10月1日～10月7日）
自転車の自転車通路走行比率：65%

誘導看板のみ（10月9日～10月15日）
自転車の自転車通路走行比率：52%

バス停車帯に自転車通路を確保した今回は、自転車通路走行比率が大きく向上した。
誘導看板のみとした場合でも自転車通路走行比率は、従来構造からは約２倍の走行比率であった。

２．２　アンケート結果

１）歩行者・自転車利用者の評価



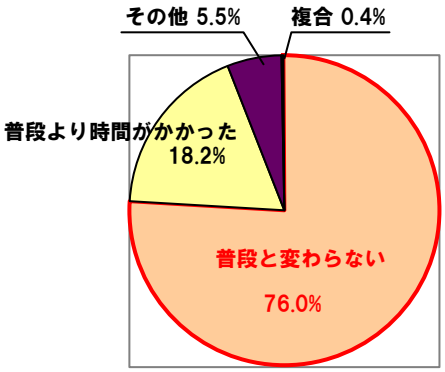
「普段より安心して歩きやすくなった（３２％）」

「自転車で通行しやすくなった（３０％）」

これらを合わせると、約６０％の評価。

集計総数：550人

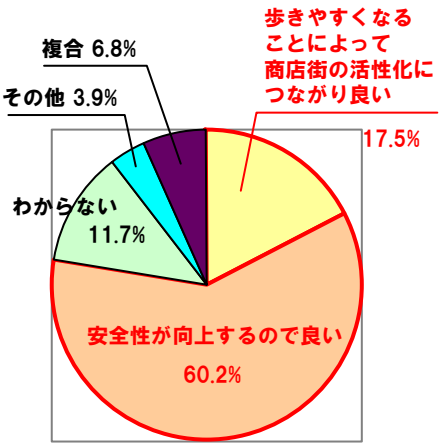
２）ドライバーの評価



「普段と変わらない」が、７６％と多数を占める。

集計総数：277人

３）商店街の評価



「街の活性化につながる（１８％）」

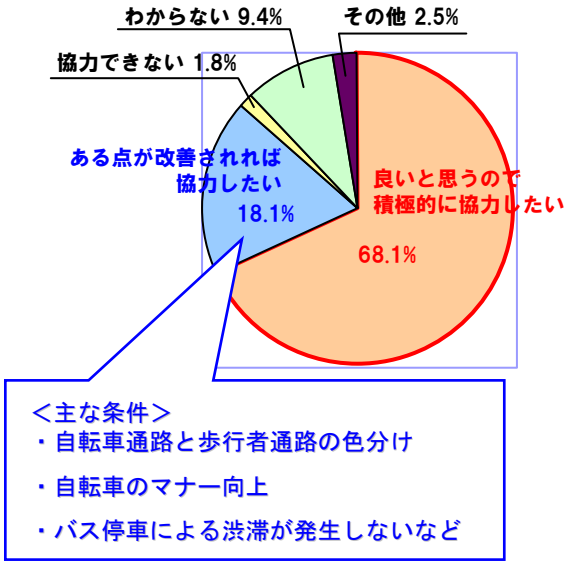
「基本的に安全性が向上するので良い（６０％）」

これらを合わせると、約８０％が好印象。

集計総数：111事業者

４）今後の協力意向

ドライバーアンケート結果のグラフ



＜主な条件＞
- 自転車通路と歩行者通路の色分け
- 自転車のマナー向上
- バス停車による渋滞が発生しないなど

ドライバーからは「積極的に協力したい」との声が、**68%と高い評価**。

歩行者・自転車利用者では、
７９％とさらに高い評価。

③ 今後の課題

◆バス停車帯部の自転車通路幅員について

◆２台同時にバスが止まった際のバス停区間外での乗降等について

◆歩行者通路と自転車通路の色分けについて

◆自転車のマナー向上について

などの改善について今後検討していく必要がある。

④ 実験結果のまとめ

○自転車の自転車通路通行が大きく増加し、アーケード内における歩行者の安全性が大きく向上
○社会実験期間中の慢性的な渋滞の発生がなく、自動車交通への影響もほとんどない
○アンケート結果から、歩行者と自転車の安全対策に大きな期待と関心

↓

社会実験区間となった新町通り南側は、継続して暫定供用

↓

○実験並びにアンケートで確認できた課題

○自転車ルール周知のマナー啓発活動

→ 地域や自転車安全利用推進協議会などで課題の改善検討とマナー啓発の連携

↓

安全で安心な新町通りの実現に向け、来年度本整備へ